

フシコトイオロワノ  
カムイトウタヌワノ

スクブホラルバキワオカイロクア  
テエタエカシシンリツネウタリ

ウサシオイナネカムイウタリ  
タパンアイヌモシリ

ウタシパノウサムオウベカレキワ  
カンロクキオカケタ

アエモントウイエキワ  
モシリウブソルオシケエン

ヤイシニレキクスアフン  
キワネココカ

アイヌモシロルタコアフフキ  
シサムウタリアナクネ

アイヌコルシヌプルクロリ  
コオリプスレロクキワ

コルキワオマンキアヤツカ  
ナイホシピレウサ

イコヤヤパプシリカイサムノ  
オカイロクキクス

タアコラチ

アイヌプリアイヌシカタヌ  
ソモアオスラキワ

アコヤイカシピレクニネノ  
ヤイコユブテク

ヤイコシアリキキカネ  
モンライケキウタリコル

アイヌケウトウム

太古より  
神代より

生活し、暮っていた  
昔の先祖と先祖たち

又、尊ぶ神さまたち  
この北海道を

お互いに支え合って  
作った後に

役目を終えて  
大地の懐（お墓）の中へ

自らを休ませるために入った  
けれども

北海道に入ってきた  
和人たちは

アイヌの尊い姿（お骨）  
発掘して

持って行った、それでも  
未だに我々に返さず、又

我々に謝罪する様子も無く  
いるので

このように

アイヌの風俗や慣習を  
忘れないで

甦らせるように  
自らを引き締め

がんばりながら  
活動している人々の持つ

アイヌの心（〜）

# 葛野次雄さんの意見陳述

コタンの会（清水裕二代表）は、新ひだか町・浦河町の旧墓地から持ち去られたままになっているアイヌ遺骨の返還を求めて、北海道大学と新ひだか町を提訴しました。2017年12月1日、札幌地裁で開かれた第1回口頭弁論で、葛野次雄・コタンの会副代表がアイヌ語と日本語で意見陳述しました。



Utaspano uoupekare 互いに支え合う 葛野辰次郎『キムスボV』より

北大開示文書研究会  
ニューズレター  
2018年1月26日発行 No.

19

大切にすべき心を

聞かせるように

御先祖さまたちが残し置いた

アイヌ語で

話した

のであります

かしこまり慎んで…。

裁判所に向かう葛野次雄さん（左）ら、「コタンの会」会員たち。  
2017年12月1日、撮影・平田剛士。



# 葛野次雄さんの 意見陳述

コタンの会副代表

2017年12月1日、札幌地裁にて

私は、葛野辰次郎<sup>くすの たつじろう</sup>エカシの二男として静内町に生まれました。エカシというのはアイヌの長老という意味で尊敬をこめた呼び方です。

私は新ひだかアイヌ協会の会員であり、コタンの会の副代表もしています。

私は、昨年の浦河町<sup>うらわ</sup>柵<sup>さく</sup>白<sup>しろ</sup>に返還された12体に始まり、紋別に返還された4体の再埋葬のカムイノミや

イチヤルパの祭司として遺骨の返還に携わり、

また浦幌の63体の遺骨返還の際のカムイノミ

やイチヤルパの副祭司として、先祖の方々に

遺骨をとりもどしたことを報告してきました。

しかし、いまもなお、何十年の間、北大医

学部アイヌ納骨堂という冷たいところに墓地

から持ち出されたままの多数の遺骨があります。

今回は、静内町から掘り出された163体

と浦河町<sup>うらわ</sup>東幌別<sup>ひがしほろべつ</sup>から掘り出された2体の遺骨

を取り戻したことを先祖に報告したいと強く

望んでいます。

日本政府や北海道アイヌ協会が言っている「アイヌの尊厳ある慰霊」

は、白老町に建設中の慰霊施設に大量の遺骨を集約するという形ではな

く、それぞれ故郷の地に再埋葬してこそ可能だと思っています。

アイヌの考えでは、人は土から生まれ、土に戻る、と私の父はいつも

語っておりました。なぜ土から人間ができるんだ？

疑問があるかと思えます。土とはすべての自然界の営みをさ

しています。アイヌの祭司は、太陽や星々のほうまで御神酒<sup>おみき</sup>をあげ、祈

りの言葉捧げます。この自然界のすべての神様に御神

酒をあげ、「何百年何千年の間、静かに、傷つけないように使わせてい

たきます」。「これからもそうします」ということで祈りの言葉をあげ

ております。わたしたちの生命は、母なる大地

から生まれて、母なる大地に還る。われわれの肉体は土に帰す。

アイヌは昔から、そういう思想をもって暮らしてきた、と父は言っ

ていました。私の家系はたどれるだけでも私の子どもで9代目になりま

す。家系図も残っていますが、古くからそういうことを語っておりま

す。

政府が2020年までに開設する予定という白老の慰霊施設に、全国

の大学などに留め置かれているアイヌ遺骨や副葬品を持っていくといわ

れています。なんでこれがアイヌの尊厳ある慰

霊といえるのか。先祖方が、「人は土から生まれて、土に帰る」と力強

く言っていたにもかかわらず、なぜ、白老の「慰霊施設」に行つて、大学

や博物館と同じように保管され続けることになるのか、私は全く理解で

きないし、亡くなったわれわれの先祖の人たちがどう思うか、というこ

とを深く考えなければならぬと思

うのです。遺骨を焼いて供養塔を作る、とい

う話と同じです。このような考え方はアイヌではない、和人の考え方で

す。私は、去年から今年にかけて実現した遺骨返還にあたり、何十体かの

再埋葬・慰霊儀式をやらせていただきましたが、今回の静内の多くの

遺体、遺骨に対しても、早く帰ってきて、その地において、静かに休ん

で欲しいという思いでございます。多少長くなって申し訳ありません。

ありがとうございます。イヤイライケレ。

とよはた  
②豊畑共同墓地 住所 新ひだか町豊畑 417

少なくとも 32 人=女性 2 人、性別不明 30 人。  
大人 31 人、子ども 1 人。本人特定可能な人 0。  
北海道大学医学部解剖学第一講座（松野正彦教授）が  
1972 年 7 月 16 日～7 月 24 日、静内町「豊畑共同墓地」  
改葬にともなって発掘。



しずない  
①静内駅前アイヌ墓地

住所 新ひだか町静内本町

少なくとも 161 人=女性 7 人、男性 8 人、性別不明 146 人。  
大人 138 人、子ども 23 人。本人特定可能な人 0。  
1956 年 7 月 18 日、静内町「駅前墓地」廃止・墓地改葬  
にともない、静内町の依頼により医学部第二講座（児玉  
作左衛門教授）が発掘。

「この墓地（静内駅前アイヌ墓地）は、静内町の都市計  
画にもとづいて、昭和三十年から三十一年にかけて、新  
設の駒場墓地に移転改装されたもので、日本人墓地に隣  
接していた。日本人の縁故墓地は昭和三十年年度において  
改葬は完了していたが、アイヌ墓地の方は、全部が無縁  
故であった。この無縁故アイヌ墓地を、昭和三十一年八  
月から十月に改葬したが、その作業は、静内町、北海道  
大学第二解剖（責任者児玉作左衛門教授）、日高郷土史  
研究ケパウの会、静内高校郷土研究部の四団体が行ない、  
人骨の学術調査は、北大医学部が担当して、現在なお進  
行中である。」（『静内町史』1963 年）

ひがしほろべつ  
③東幌別共同墓地

住所 浦河町東幌別 194

少なくとも 2 人。いずれも成人男性（開示資  
料ごとに食い違いあり）、1 人は 1931 年発掘、  
もう 1 人の発掘時期不明。2 人とも個人特定  
可能。  
北海道大学医学部解剖学第一講座（山崎春雄  
教授）が発掘したとみられる。

このページのイラストは、北海道大学『北海道大学医学部アイヌ人骨  
収蔵経緯に関する調査報告書』（2013 年）に基づいて作成しました。  
会報 12 号掲載記事「北海道大学自身による「静内共同墓地発掘」の  
経緯」もどうぞ。

# 北海道大学教授たちが 遺骨を持ち出した アイヌ墓地

（コタンの会 2017 年 10 月提訴分）

クコロコタン 唄／城野口ユリ 歌詞採録／藤野知明 採譜／平田剛士

6 5 4 3 2 1  
 私のコタン 私の村  
 お母さんのそばへお父さんのそばへ  
 海をこえて山をこえて  
 鳥のように羽があったら飛んでいきたい  
 鳥の神、バスクルカムイよ、私の言葉をコタンの父母に伝えて下さい  
 私の言葉をコタンの父母に伝えて下さい

6 5 4 3 2 1  
 クコロコタン クコロコタン クコロコタン クコロコタン  
 ハボカサベエ ハチャカサベエ ハボカサベエ ハボカサベエ  
 アトウイオイカ ヌプリオイカ アトウイオイカ アトウイオイカ  
 チカブタクネ チカブタクネ チカブタクネ チカブタクネ  
 バスクルカムイ バスクルカムイ バスクルカムイ クヤイコランケ  
 クヤイコランケ クヤイコランケ クヤイコランケ クヤイコランケ

## クコロコタン Ku Kor Kotan

唄・城野口ユリ Traditional song in Kineusu Kotan, Performed by Yuri Jyo-noguchi

© 2017-2018 城野口ユリ、コタンの会、北大開示文書研究会  
 All rights reserved.



映画『八十五年ぶりの帰還』から。

城野口ユリフチのヤイサマ  
 クコロコタン／私のコタン

杵白<sup>きねうす</sup>コタン出身で、アイヌ遺骨返還訴訟原告だった故・城野口ユリフチが遺したヤイサマ（即興歌）です。

ふるさとから遠く離れた出稼ぎ先で、空をゆく鳥たちに望郷の思いを託す若いアイヌの姿が目には浮かびます。ユリフチは生前、機会あるたびに大勢の前で唄い、「叔母に教わった唄です。ぜひみんなにおぼえてもらいたい」と話していました。

映画『八十五年ぶりの帰還 アイヌ遺骨 杵白コタンへ』で在りし日のユリフチの歌声を聴くことができます。

### 八十五年ぶりの帰還

アイヌ遺骨 杵白コタンへ

藤野知明監督作品(2017年)  
 ¥1,000(税込) 製作／コタンの会・北大開示文書研究会  
 メディア/DVD 本編/25分

お求めは……  
 サッポロ堂書店  
 〒060-0809 北海道札幌市北区北9西4-1  
 TEL 011-746-2940 FAX 011-746-2942

コタンの会事務局  
 札幌市中央区大通西13 北晴ビル702 市川守弘法律事務所内  
 TEL 011-281-3343 FAX 011-281-3383

通信販売は……  
 郵便振替用紙に郵便番号、住所、お名前、電話番号、購入枚数を明記のうえ、代金・送料とともにお申し込みください。送料はDVD1枚あたり180円です。入金を確認次第、DVDをお届けいたします。  
 ゆうちょ銀行振替 02790 - 1 - 101119 北大開示文書研究会

Utaspino oupekare 互いに支え合う 葛野辰次郎『キムスポV』より  
 北大開示文書研究会ニューズレター No.19 2018年1月26日  
 編集・発行 北大開示文書研究会  
 共同代表 清水裕二、殿平善彦  
 事務局 〒077-0032 北海道留萌市宮園町3-39-8 (三浦忠雄方)  
 FAX 0164-43-0128 <http://hmjk.world.coocan.jp>  
 ロゴデザイン 浅野由美子